

競輪場の果たすべき役割についての研究

トップスポーツマネジメントコース

5013A324-8 渡邊俊太郎

研究指導教員：平田 竹男 教授

1. 背景

現在競輪場は、特定ファンのみが観戦し、競輪開催以外では余り利用されていない。来場者平均年齢は60歳を超え、車券売上も1991年に2兆円弱であったが3分の1以下に落ち込んでいる。近年では収益が上がらず廃止する競輪場や廃止を検討している競輪場が後を絶たない。

競輪の現状をトリプルミッションモデル(平田2006)で分析すると競輪が他のスポーツに比べて「勝利」「資金」という要素において優位性があると同時に、「普及」面では、チャンスがあるにも関わらず活かしきれていないこと、ギャンブル性が強調されすぎ、スポーツとしての理念が無く、「勝利」「資金」「普及」が全く循環していないことがわかる。なお、オリンピックで行われているKEIRIN(以下「KEIRIN」と表記)と、車券を売っている競輪はトラックの周長、自転車などルールが異なる。特に日本を除く国では自転車トラック競技のオリンピックメダル獲得数とトラック競技場の数に相関関係が認められるにも関わらず、日本はトラック競技場の数が世界一(68ヶ所。うち44ヶ所が競輪場)であるにも関わらずメダル獲得数順位が低いのが特徴的である。日本においても大都市近郊に拠点となるトラック競技場が確保できれば自転車競技の普及に寄与する可能性があることを示した論文(松倉2012)もあるが、競輪場はギャンブル場としてしか活用されておらず、スポーツ施設として活用されていない。

競輪場をトラックアリーナとして開放することこそが競輪再興の処方箋であると考えるが、競輪場の活用についての研究はほとんどない。

2. 研究目的

競輪場が一般の自転車愛好者やスポーツファンも気軽に使い、自転車競技普及の拠点となるトラックアリーナとして活用される可能性を探り、競輪再生への打開策を明らかにすること。

3. 研究手法

下記事項についてアンケート調査を実施した。

(1) オリンピックでのメダル獲得について

対象：①競輪場(千葉・松阪・富山)来場者、②競輪選手、③競輪施行者、④競輪場スタッフ(千葉・松阪・富山)

(2) 競輪場を競技場として開放することについて

対象：①競輪場(千葉・松阪・富山)来場者、②競輪選手、③競輪施行者、④市民レース参加者(千葉)、⑤世界戦観戦者

(3) KEIRIN ルールでの競輪開催について(ソフト)

対象：①競輪場(千葉・松阪・富山)来場者、②競輪選手、③競輪施行者

(4) KEIRIN 規格の競輪場設置について(ハード)

対象：①競輪場(千葉・松阪・富山)来場者、②競輪選手、③競輪施行者

(5) 競輪と KEIRIN について

i レース内容の面白さについて

対象：①競輪場(千葉・松阪・富山)来場者、②競輪選手、③市民レース(千葉)、④世界戦観戦者

ii 見栄えの良さについて

対象：①競輪場(千葉・松阪・富山)来場者、②競輪選手、③世界戦観戦者

iii 競輪場への来場意欲について

対象：一般人(首都圏・関西圏)

iv 車券購入意欲について

対象：①一般人(首都圏・関西圏)、②世界戦観戦者

4. 結果

回答者数は、競輪場来場者合計554名、競輪選手124名、競輪施行者37名、市民レース参加者23名、一般人1040名、競輪場スタッフ328名、世界戦観戦者105名であった。

(1) オリンピックでのメダル獲得について

競輪場来場者の498名のうち299名が「非常に良い」、157名が「良い」と回答した。

「東京オリンピックでメダルを獲得するために業界を上げて最大限の努力をすべき」とした人が、競輪選手では118名のうち87名、競輪施行者では35名のうち19名であった。

(2) 競輪場を競技場として開放することについて

千葉競輪場来場者214名のうち100名が「非常に良い」、87名が「良い」と回答し「非常に悪い」「悪い」は各1名ずつであった。

競輪選手120名のうち「頻繁にレースを開催すべき」95名、「少しはやるべき」が22名で、「やるべきでない」とした人はいなかった。

競輪施行者では36名のうち「頻繁にやるべき」10名、「少しはやるべき」18名で、「やるべきで無い」が2名であった。

千葉競輪場で開催した市民レース参加者22名のうち12名が「自転車トラックレースにもともと興味があったが、参加することにより更に興味を持った」と回答し、8名が「もともと興味がなかったが、参加して興味を持った」と回答した。その他は「トラックレースを良く見る」が2名であった。世界戦観戦者は102名のうち76名が「競輪場やベロドロームを走行してみたい」と回答した。

(3) KEIRIN ルールでの競輪開催について

競輪場来場者 487 名のうち 239 名が良いと回答し、76 名が悪いと回答した。競輪選手は 119 名のうち、賛成が 61 名、反対 58 名であった。競輪施行者は 34 名のうち、賛成反対共に 17 名であった。

(4) KEIRIN 規格の競輪場設置について

競輪場来場者 354 名中 203 名が良いとし、43 名が悪いとした。競輪選手は 120 名のうち、賛成が 56 名、反対が 45 名であった。競輪施行者については、35 名のうち、賛成が 11 名、反対が 17 名、「どちらとも言えない」が 7 名であった。

(5) 競輪と KEIRIN について

i レースの面白さについて

競輪場来場者 554 名に複数回答可で回答を求めたところ KEIRIN が「競輪よりつまらない」が 197 名、「競輪より面白い」が 96 名であった。

競輪選手では 120 名のうち、「競輪の方が面白い」が 75 名、「競輪の方が面白くない」が 4 名、「どちらとも言えない」が 41 名であった。

市民レース参加者には競輪と KEIRIN どちらに興味があるか質問をし、20 名中 18 名が「両方に興味がある」と回答した。

世界戦観戦者には競輪場で行われている競輪と今回行われている KEIRIN どちらが競技として面白いか質問したところ、「競輪の方が断然面白い」、「競輪の方が面白い」が回答者 101 名のうち 30 名であったのに対し「今回の KEIRIN の方が面白い」「今回の KEIRIN の方が断然面白い」が 39 名であった。

ii 見栄えの良さについて

競輪場来場者 528 名に複数回答で回答を求めたところ、KEIRIN が「競輪より格好良い」が 78 名、「競輪より格好悪い」が 20 名であった。

競輪選手では自転車のスタイリングについて 117 名のうち「競輪の方が格好良い」が 19 名、「競輪の方が格好悪い」が 59 名、「どちらともいえない」が 39 名であった。ユニフォームのデザインについては 119 名のうち「競輪の方が格好良い」が 12 名、「競輪の方が格好悪い」が 68 名、「どちらともいえない」が 39 名であった。ヘルメットのスタイリング・デザインについては 120 名のうち「競輪の方が格好良い」が 5 名、「競輪の方が格好悪い」が 89 名、「どちらともいえない」が 26 名であった。

世界戦観戦者 102 名のうちユニフォーム・自転車について「競輪の方が断然格好良い」「競輪の方が格好良い」の回答合わせて 17 名であったのに対して「今回の KEIRIN の方が格好良い」「今回の KEIRIN の方が断然格好良い」が合わせて 72 名であった。

iii 来場意欲について

一般人 1040 名に写真を見せてアンケートを取ったところ、普段の競輪開催時に競輪場に行きたいと回答した人は 66 名、記念競輪時の競輪場に行きたいと回答した人は 131 名、KEIRIN

規格のトラックに行きたいと回答した人が 307 名であった。

iv 車券購入意欲について

同じく一般人 1040 名に写真を見せてアンケートを取ったところ、普段の競輪開催時に競輪場で車券を購入してみたいと回答した人は 50 名、記念競輪時では 88 名、KEIRIN 規格のトラックでは 185 名であった。

また、世界戦観戦者に「今日のレースで車券を購入できたらしてみたいですか」と質問したところ、103 名のうち 61 名が「してみたい」と回答した。また、この 61 名のうち、40 名がスポーツ自転車を所有していた。車券購入未経験者は 42 名で、そのうちの 18 名が「してみたい」と回答した。

5. 考察

来場者を含む関係者は競輪選手のメダル獲得を期待していることが分かった。特に来場者のうち若い人から高齢の方まで全ての層のファンが等しく期待していることも新たな発見であった。ファンは単なるギャンブルとしてではなく、自転車競技として競輪を楽しんでいることの証左である。

メダル獲得は競輪再生の重要なきっかけであることは間違い無い。しかし、メダル獲得を競輪再生のきっかけにするには、自転車トラック競技の認知普及によって国民の注目を集めておく必要がある。そのために、都市部を含めて世界一の数を誇る競輪場を含むトラックを開放することが重要であるが、来場者、選手、施行者の多くは競輪場がアマチュアの競技場として使われることも良いと考えていることが分かった。

KEIRIN ルールでの車券発売や KEIRIN 規格の競輪場の設置についても関係者が前向きな考えであったことも分かった。一方で KEIRIN 規格の KEIRIN よりも今の競輪の方が面白いという意見が多数である。見栄えが良く、予想もしやすい KEIRIN と現行の競輪は両立可能である。

KEIRIN 規格の競輪場での競輪については、競輪未経験者の車券購入意欲が極めて高く、一気に新規ファンを獲得できる可能性があることも明らかになった。

オリンピックでのメダル獲得のためにも KEIRIN ルールによる競輪の開催が有用と考えられ、KEIRIN から入った新規ファンが面白い競輪に移行することが予想される。ただ、そのためには競輪場やユニフォームの改善が必要であろう。

6. 結論

競輪場を積極的に多くの市民への開放は可能であることが明らかとなった。競輪場が自転車競技の普及・強化の普及となるだけでなく、多くの市民に利用され市民の健康やスポーツの拠点としての役割を果たすことが、競輪再生、競輪のトリプルミッションの好循環へ導くカギとなる。

